

特定非営利活動法人
足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ

2012 年度法人総会 議案書



2011 年度事業評価・会計決算報告

第 1 号議案 2012 年度事業計画 (案)

第 2 号議案 2012 年度会計予算報告 (案)

左上写真：えどがわ未来ウォーク／右上写真：皮むき間伐（岐阜県関市板取地区）
左下写真：バイオガス施設見学（埼玉県小川町）／右下写真：『いのちの林檎』上映イベント

2012 年 5 月 19 日 10:00～12:00

葛西区民館・講座講習室

2011年度事業活動日誌

- 4月11日 ●第1回運営委員会
- 27日 篠崎図書館が市民立第一発電所を見学
- 29日 天然住宅バンク皮むき間伐ツアーin 栗駒に参加（～5月2日）
- 5月09日 2011年度定期総会
 - 第2回運営委員会
 - 「イオン黄色いレシートキャンペーン」による寄附で多機能プリンターを購入
- 17日 環境文明21会報座談会に出席
- 21日 神奈川ネットワーク運動・鎌倉の学習会に出講（鎌倉市）
- 23日 読売新聞生活情報部より取材
- 27日 毎日小学生新聞より取材
- 28日 気候ネットワーク総会、えどがわエコセンター総会に出席
- 29日 熊森協会群馬県支部第4回総会で講演（高崎市）
- 6月01日 「いのちの林檎」自主上映会＝参加者210名
- 11日 脱原発100万人アクション「えどがわ未来ウォーク」を開催＝参加者30名
- 15日 ●第3回運営委員会
- 20日 自給エネルギーを考える流山の会が来訪
- 26日 清新町九条の会に出講（江戸川区）
- 7月07日 生活クラブ連合会・省エネゲームに出講（新宿区）
- 10日 西東京生活クラブ運動グループ協議会に出講（西東京市）
- 13日 朝日新聞より取材（エアコン性能偽装問題）※気候ネットワーク桃井さん同席
- 17日 神奈川ネットワーク運動本部学習会に出講（横浜）
- 26日 ●第4回運営委員会
- 29日 ヒートポンプ問題連絡会と消費者庁との懇談、原発さよなら署名提出
- 31日 神奈川ネットワーク運動本部学習会に出講（横浜）
- 8月20日 夏の板取ツアー（～22日）
- 9月02日 東アジア気候フォーラム2011（韓国）に参加
 - 6日 ●第5回運営委員会
- 10日 ネットワーク運動・海老名学習会に出講
- 10月11日 PV-Net 東京などと意見交換会に出席（荻窪）
- 13日 ●第6回運営委員会
- 17日 省エネ家電融資10万円を実施
- 11月01日 環境講演会「放射能×子ども×エネルギー」を開催＝参加者100名
- 12日 「さようなら原発江戸川連絡会」の発足式に出席
- 17日 ●第7回運営委員会
- エコライフめぐろ推進協議会・省エネゲームに出講（目黒区）
- 12月28日 小松川市民ファーム忘年会に参加
- 1月14日 川口自然エネルギー学校に出講（川口市）
 - 「脱原発世界会議2012 YOKOHAMA」に参加（～15日）
- 18日 武蔵野市国際交流協会・省エネゲームに出講（武蔵野市）
- 22日 生活クラブ千葉・省エネゲームに出講（松戸市）
- 24日 江戸川総合人生大学に出講
- 27日 ●第8回運営委員会
- 29日 「新しい社会づくりを提案するフォーラム」に参加（品川区）
- 2月05日 生活クラブ千葉・省エネゲームに出講（千葉市）
- 11日 浄土宗「共生・地域文化大賞」総括シンポジウムに参加（京都市）
- 12日 さようなら原発江戸川連絡会・署名活動（瑞江駅南口）
- 13日 ●第9回運営委員会
- 15日 「明日のエネルギーを考えるWS」（第1回）を開催＝参加者18名
- 18日 気候ネットワーク「市民が進める温暖化防止」に参加（～19日）
- 22日 「明日のエネルギーを考えるWS」（第2回）を開催＝参加者18名
- 29日 「明日のエネルギーを考えるWS」（第3回）を開催＝参加者15名
- 3月11日 3・11イベント「ピースオンアース」（日比谷公園）に参加
- 15日 ●第10回運営委員会
- 25日 伊勢原の環境を考える会・学習会に出講

2011年度事業評価

2011年度は「低炭素社会に向けた可能性の実践と発信」をテーマとして、省エネの推進と再生可能エネルギーの導入による低炭素社会への道筋に向けて、必要な地域での実践と発信を行っていきとし、東京電力・福島第一原発事故を受け、初めて脱原発を掲げた。原発事故に伴うエネルギー政策の動揺は、省エネや再生可能エネルギーへの関心を高め、省エネゲームや講演会への出講、市民立発電所への見学が相次ぎ、存在感を示すことができたが、一方で、新規事業として提起した「PVE事業」や「PVパワーアップ事業」は行うことができなかった。また、これまでの活動を見つめ直し、ビジョンの共有や事業の実施体制を見直すことになった。

1. 家庭・地域における省エネアクションプランの作成とキャンペーンの実施

- A) 省エネ家電買い替えサポート事業を運営する。
- B) エネルギー・資源多消費型社会システムを検証する。
- C) 国産木質バイオマスの有効活用に向けた手法を周知、実践する。

<自己評価>

東京電力・福島第一原発事故を受けて、6月には脱原発100万人アクション「えどがわ未来ウォーク」(参加者30名)を開催し、11月には環境講演会「放射能×子ども×エネルギー」(参加者100名)を開催した。会員1名に対して省エネ家電買い替えサポート融資を実施すると共に、天然住宅バンクの皮むき間伐ツアーに参加した。しかし、太陽光発電によって電気自動車を域内活用する「PVE事業」については、助成金獲得など事業推進に必要なことができなかった。

2. 地球温暖化やエネルギー等環境問題に関する研修会の実施等の啓発教育

- A) シンポジウムやワークショップなどを企画・開催する。
- B) 啓発資料を作成する。

<自己評価>

6月にドキュメンタリー映画「いのちの林檎」自主上映会(参加者210名)を開催したほか、2月には「明日のエネルギーを考えるWS」(実参加28名)を企画・開催した。『ノリナのカ』については、田中優の執筆・監修を断念し、理事や運営会員で作業を進め出版に向けた作業を進めることができた。また、啓発資料として、環境講演会「放射能×子ども×エネルギー」DVDを作成・有料頒布した。

3. 市民出資による自然エネルギー発電所の建設と運営

- A) 市民立第一発電所および第二発電所を運営する。
- B) 市民立第三発電所を建設する。

<自己評価>

東京電力・福島第一原発事故を受けて、市民立発電所への関心が高まり、篠崎図書館や市民団体からの見学を受け入れた。また、1月には川口自然エネルギー学校に出講した。しかし、夏場の温度上昇に伴う発電効率の低下を防ぐ「PVパワーアップ事業」については、天候不順や日程調整不足から実施できなかった。また、市民立第三発電所建設に向けた情報収集も十分に行えなかった。

4. フロンガス回収事業支援と回収制度確立・法制化等のキャンペーン実施

- A) ストップフロン全国連絡会の活動に参画する。

<自己評価>

ストップフロン全国連絡会に理事を出して活動に参画すると共に、ヒートポンプ問題連絡会に引き続き参加し、エアコンのヒートポンプ性能偽装問題の周知と対策に取り組んだ。本会は、性能偽装の恐れがあるエアコンを省エネ機器と推奨していることについて、エコポイント環境寄附の主管官庁(経産省・総務省・環境省)に質問状を出すと共に、消費者庁に通報を行った。また、国会議員との懇談を通じて政権与党に働きかけた結果、消費者庁によるメーカーへの自主改善状況報告依頼を引き出すことができた。

5. 地球温暖化防止のための地域行政、国、国際社会、市民への政策提言

- A) 江戸川区「次世代型省エネ行動事業」の運営に参画する。
- B) 行政などへの意見表明を行う。

<自己評価>

えどがわエコセンターを通じて、次世代型省エネ行動事業の運営に参画すると共に、区民の省エネ実績を域内のCO₂排出削減に結びつける「参加型カーボンオフセット」のしくみ作りに向け、JCB と意見交換会を実施するなどしてきたが、事業の実現には至らなかった。

6. 気候変動枠組み条約関連会議への参加やキャンペーンの実施

- A) 気候ネットワークや MAKE the RULE キャンペーンに参加する。

<自己評価>

東アジア環境情報発信所を通じて、9月には日本・中国・韓国の市民団体による「東アジア気候フォーラム」に参加した。2月には気候ネットワークのイベント「市民が進める温暖化防止」に参加し、運営委員会企画として分科会を企画・開催した。また、発電に伴うCO₂排出を公害として公害防止調停委員会に申し立てるClimate-Jに申請人として参加した。

7. 政府機関、自治体、事業者、市民、NGOとの交流、連絡提携

- A) えどがわエコセンターの運営に参画する。
- B) 天然住宅の活動に参画する。
- C) ぐるっ都地球温暖化対策地域協議会に参加する。
- D) 近隣地域の環境NGOと交流、提携を行う。

<自己評価>

えどがわエコセンター理事を出し運営に参画すると共に、低炭素社会づくり委員会の活動に主体的に関わり、緑のカーテンやエコタウンえどがわ推進計画の検証、省エネ事業の提案などを行った。天然住宅の活動では、4月に皮むき間伐ツアーに参加した。また、東京電力・福島第一原発事故を受けて、11月に結成された「さようなら原発江戸川連絡会」や原発の是非を問う住民投票実現をめざした「直接請求を成功させる会・江戸川」に参加し、活動に主体的に関わった。こうした地域の活動のほか、1月には「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」、3月には「ピースオンアース」に参加した。

事業者との連携ではイオン「黄色いレシートキャンペーン」に参加し、その寄付で購入した多機能プリンターを小松川市民ファームの共有財産として活用することにつなげた。

8. 本法人の目的および地球環境問題全般に関する調査研究および情報の収集と提供

- A) あしもと通信を発行する。(4回=6月・9月・12月・3月発行予定)
- B) ホームページを適宜更新し、リニューアルを検討する。
- C) 参考となるイベントや活動などへの参加、視察を行う。

<自己評価>

法人紹介パンフレットの内容を更新し作成することができた。しかし、あしもと通信については執筆の役割分担などを試みたが、3回の発行にとどまり計画的な発行ができなかった。ホームページ更新もトップページのみ更新にとどまった。

2011年度会計決算報告

収入の部

科目	予算額	決算額	予算残額	説明	明
繰越金	1,602,198	0	△ 1,602,198	前年度より	
会費	60,000	42,000	△ 18,000	会費1,000円×42名	
事業収入	2,000,000	401,520	△ 1,598,480	DVD売上等	
助成・寄附	200,000	1,417,943	1,217,943	理事寄付、エコポイント、発電所	
融資返済		247,781	247,781		
雑収入	500	248	△ 252	利息	
合計	3,862,698	2,109,492	△ 1,753,206		

支出の部

科目	予算額	決算額	予算残額	説明	明
総会費	100,000	0	100,000		
会議費	100,000	0	100,000		
事業費	2,500,000	362,277	2,137,723	講師謝金、DVD作成	
印刷費	100,000	143,745	△ 43,745	パンフレット作成	
役員費	100,000	46,835	53,165	会報等の郵送費	
省エネ融資	59,958	100,000	△ 40,042	会員向け融資1件	
渉外費	50,000	13,000	37,000	Climat-J参加、気候ネットワーク会費	
賃借料	50,000	173,480	△ 123,480	イベント会場借上等	
事務費	500,000	34,421	465,579	色上質紙、封筒等の購入	
予備費	302,740	0	302,740		
合計	3,862,698	873,758	2,988,940		

繰越額

収入額 2,109,492 - 支出額 873,758 = 1,235,734
 (繰越金内訳) 預金: 現金:

監査の結果、帳票、預金、現金等について、間違いのないことを認めます。

2012年 月 日

監事

第1号議案 2012年度事業計画について

★低炭素社会に向けた可能性の実践と発信

5月5日、日本の全ての原発が停まった。これは、東京電力・福島第一原発事故で明らかになった原発の危険性と脆弱性に対して、国民世論が拙速な再稼働を許さなかった結果である。これを受けて、政府では再生可能エネルギーの全量買い取り制度やエネルギー基本計画づくり等が進められており、今年、日本の今後のエネルギー政策が決まると言って過言ではない。一方、本会の主要な活動目的である地球温暖化対策については、日本政府は京都議定書の延長に参加せず、2020年までに25%削減を掲げた地球温暖化対策基本法の制定もままならないなど後退を続けている。

このような事態をむかえて、地域で地球温暖化対策と脱原発の両立が可能であることを示すこと求められており、様々な機会をとらえて、これまでの活動で培った知見を広めていく必要がある。

一方、団体設立から15年が経過する中で、事業を効率的に進めるため、本会の運営のあり方を再構築する必要がある。今年度は、今後の活動に向けた基盤整備の1年とする。

1. 家庭・地域における省エネアクションプランの作成とキャンペーンの実施

- A) 省エネ家電買い替えサポート事業を運営する。
- B) エネルギー・資源多消費型社会システムを検証する。
- C) 国産木質バイオマスの有効活用に向けた手法を周知、実践する。
- 会員向けの省エネ家電買い替えサポート事業を引き続き運営すると共に、進んでいない小規模事業者向けの省エネ事業の可能性を追求していく。また、夏に実施予定の板取ツアーなどを通じて皮むき間伐の実践や行っていく。

2. 地球温暖化やエネルギー等環境問題に関する研修会の実施等の啓発教育

- A) シンポジウムやワークショップなどを企画・開催する。
- B) 『ハルナのちから』を出版する。
- 5月に環境映画『第4の革命』上映会を企画・開催すると共に、6月には江戸川区環境フェアに出展し、省エネや再生可能エネルギーの可能性について広く市民への普及をめざす。また、環境副読本『ハルナのちから』を出版し、脱原発と地球温暖化対策を両立できる社会づくりに向けた市民の理解をうながす。そして、昨年に引き続き「明日のエネルギーを考えるワークショップ」を開催し、地域における人材づくりを行う。このほか、地球温暖化問題やエネルギー問題に関する他団体の研修会などに出講し、本会がこれまで培ってきた知見の普及に努める。

3. 市民出資による自然エネルギー発電所の建設と運営

- A) 市民立第一発電所および第二発電所を運営する。
- B) 市民立第三発電所を建設する。
- 市民立第一発電所および第二発電所を運営すると共に、見学を受け入れる。昨年実施できなかった、夏場の温度上昇に伴う発電効率の低下を水冷によって防ぐ「PVパワーアップ事業」の実施可能性を追求していく。また、第三発電所の建設に向けた情報の収集に努める。

4. フロンガス回収事業支援と回収制度確立・法制化等のキャンペーン実施

- A) ストップフロン全国連絡会の活動に参画する。
- B) 区内における代替フロン回収事業について研究する。
- ストップフロン全国連絡会に理事を出して活動に参画する。また、フロン回収破壊法制定以降も続く代替フロンの使用に対して、区内の自動車解体事業者から代替フロン回収の状況等について情報収集を進め、回収事業の実現可能性について研究を行う。

5. 地球温暖化防止のための地域行政、国、国際社会、市民への政策提言

- A) インセンティブある省エネ事業の実現をめざす。
- エコセンター低炭素社会づくり委員会を通じて、江戸川区次世代省エネ事業（2011年度終了）の後継事業となる省エネ事業の企画・立案に参加し、ポイント制度など省エネ行動した区民にインセンティブのある省エネ事業の実現をめざす。

6. 気候変動枠組み条約関連会議への参加やキャンペーンの実施

- A) 気候ネットワークや気候変動問題に関するキャンペーンに参加する。
- 気候ネットワークに理事を出して運営に参画すると共に、東アジア環境情報発信所を通じて、日本・中国・韓国の市民団体による「東アジア気候フォーラム」に参加し、それらが実施するキャンペーンに参加していく。Climate-J については公害防止調停委員会への調停が認められず行政訴訟に移行したが、今後も申請人として参加していく。

7. 政府機関、自治体、事業者、市民、NGOとの交流、連絡提携

- A) えどがわエコセンターの運営に参画する。
- B) 地域の環境NGO等と交流、提携を行う。
- えどがわエコセンターに理事を出して運営に参画すると共に、低炭素社会づくり委員会に主体的に関わり実効性あるしくみづくり実現をめざす。地域での交流・提携では、1,000万人署名活動などを通じて脱原発の政策方針化をめざす「さようなら原発江戸川連絡会」、原発の是非を問う住民投票条例制定をめざす「直接請求を成功させる会・江戸川」に主体的に参加し、活動を担う。また、「e シフト（脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会）」に参加し、脱原発に向けた行動、キャンペーンに関わっていく。

8. 本法人の目的および地球環境問題全般に関する調査研究および情報の収集と提供

- A) 会報『あしもと通信』を発行する。（4回=6月・9月・12月・3月発行予定）
- B) ホームページを適宜更新し、リニューアルを検討する。
- C) 「ボトムアップ型エネルギー供給システムの構築可能性に関する研究」に参加する。
- 『あしもと通信』の計画的な発行とホームページのリニューアルに向けて、運営委員会とは別に「広報委員会」を設け、企画・編集などの作業を行う。また、ホームページの情報量を増やすためサーバー容量の増設やデザインの外部委託なども検討する。調査研究活動では、太陽光発電所ネットワーク・手塚智子氏の「ボトムアップ型エネルギー供給システムの構築可能性に関する研究」に共同研究者として、脱原発とエネルギーシフトに向けたシステムの研究活動に参加する。

第2号議案 2012年度予算案について

収入の部

科目	前年度予算額	前年度決算額	予算額	予算増減額	説明
繰越金	1,602,198	0	1,235,734	△ 366,464	前年度より
会費	60,000	42,000	80,000	20,000	1,000円×80名
事業収入	2,000,000	401,520	400,000	△ 1,600,000	『ハルナのちから』頒布
助成・寄附	200,000	1,417,943	500,000	300,000	理事寄付、エコポイント、発電所
融資返済	0	247,781	200,000	200,000	20,000円×10名
雑収入	500	248	1,000	500	利息、配当金
合計	3,862,698	2,109,492	2,416,734	△ 1,445,964	

支出の部

科目	前年度予算額	前年度決算額	予算額	予算増減額	説明
総会費	100,000	0	100,000	0	
会議費	100,000	0	50,000	△ 50,000	
事業費	2,500,000	362,277	1,000,000	△ 1,500,000	『ハルナのちから』出版
印刷費	100,000	143,745	200,000	100,000	会報・イベントちらし印刷
通信費	100,000	46,835	100,000	0	会報等の送付
省エネ融資	59,958	100,000	100,000	40,042	会員向け融資1件
渉外費	50,000	13,000	20,000	△ 30,000	気候ネットワーク会費等
賃借料	50,000	173,480	200,000	150,000	会場賃借料
事務費	500,000	34,421	200,000	△ 300,000	封筒・紙等の購入、事務局賃借
予備費	302,740	0	446,734	143,994	
合計	3,862,698	873,758	2,416,734	△ 1,445,964	

◆予算案に関するコメント

(1) 収入の部

繰越金が膨らんだのは、環境副読本『ハルナのちから』の出版を目的にエコポイント環境寄附から受けてきた寄附金収入に対して昨年度出版できずに未消化であるため。「事業収入」は『ハルナのちから』の有料頒布による収入を見込んでいる。「助成・寄附」は今年度入金予定のエコポイント環境寄附に加え、理事からの寄付、市民立発電所の電気料金相当額を寄付として得ることが見込めることから算出した。融資返済は昨年度実績見合いで算出した。

(2) 支出の部

事業費が前年度予算額から大きく減ったのは、助成金収入を大きく見込んでいたが、収入がエコポイント環境寄附に限られたためである。事業費としては、『ハルナのちから』の出版、環境映画「第4の革命」上映会の実施、「明日のエネルギーを考えるワークショップ」の企画・開催が主なものとなる。その他の事業は、経費をかけないで実施していく予定である。